



2026 年 10 月 29 日

各 位

会社名 株式会社ボルテージ
代表者名 代表取締役社長 加藤 慶太
(コード番号：3639 東証スタンダード)
問合せ先 取締役 CFO 川西 祐輔
TEL：03-5475-8141
URL：https://www.voltage.co.jp/ir/

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は本日開催の取締役会において、資本コスト・収益力・市場評価の現状を分析し、改善に向けた目標と取り組み方針を決議いたしましたので、以下のとおり株主・投資家の皆さまにお知らせいたします。

1. 成長戦略の前提と資本コストの位置づけ

当社は、前期までに「アプリ中心の事業構造」から「アプリ・電子コミック・コンシューマゲームの三本柱」への事業ポートフォリオ転換に向けた基盤整備を完了いたしました。当期におきましては、この新体制を本格稼働させ、特に新分野事業の成長を一段と加速させております。

また、事業強化の一環として前期からの準備を経て、当期新たに1社を連結子会社化いたしました。今後は、大型商品の開発・販促投資および継続的なM&Aを機動的に推進するため、資本市場を活用した資金調達も視野に入れ、企業価値の持続的な向上を図ってまいります。

市場から資金を調達する以上、投資家が期待する資本コスト（7～8%を想定）を踏まえ、持続的にリターンを確保できる体制づくりが不可欠です。現状のROICおよびROEは十分な水準とは言えませんが、資本コストを強く意識した経営管理を徹底し、今後予定される投資に見合うリターンを創出し、中長期的な株主価値の向上に努めてまいります。

2. 目標、および改善に向けた方針

当面、まずはROIC・ROE 5%、PBR 1倍以上の達成を目指しつつ、中長期的にはさらなる資本効率の向上を視野に入れます。

改善に向けた方針としましては、現在推進中の新事業ポートフォリオの拡充による業績回復への取り組みを主軸といたします。

3. 現状評価・分析

(2026年6月末の財務数値を基準に算出)

指標	2026年6月期	2025年6月期
ROIC (投下資本利益率)	-5.14%	0.44%
ROE (自己資本利益率)	-3.64%	0.61%
PBR (株価純資産倍率)	0.66 倍	0.88 倍

(注) 1. ROIC は、 $(\text{税引後営業利益}) \div (\text{自己資本} + \text{有利子負債})$ により算出

(注) 2. 株価は 2025 年 8 月末、2026 年 8 月末を基準に算出

ROE および ROIC は、営業損失および当期純損失の計上によりいずれもマイナスに転じました。PBR は、2026 年 8 月末時点で 0.66 倍（前年 0.88 倍）と 1.0 倍を下回る水準であり、株式市場からの評価は依然として厳しい状況です。

4. 改善に向けた具体的な取り組みと進捗

(1) 成長戦略

・成長戦略の実行

ファンダム戦略：アプリ事業のファンダム充実、新分野とのシナジー、リソース配分

ヒット IP 戦略：新分野（電子コミック・コンシューマ）の拡大と強力 IP の創出

* IP=Intellectual Property（知的財産）。当社オリジナルのタイトル 1 つ 1 つを指す。

【進捗】

ファンダム戦略：アプリにおける事業効率化により、経費の抑制を継続し、黒字基調の維持よりも売上拡大を優先して、新分野への投資を図ってまいります。

ヒット IP 戦略：主に新分野において投資サイクル方式を用い、リスクを分散しつつ、早期の黒字成長を目指しております。

新分野事業の 2026 年 6 月期の売上比率は 13.3%に達し、前期比で 3.1 ポイント上昇しました。構成比目標である 20%に向けて着実に育ちつつあります。

2026 年 7 月には、中長期的な企業価値向上を図るため、M&A により株式会社オペラハウスを完全子会社化しました。同社を当社グループに迎えることにより、①コンシューマゲーム開発体制の強化、②アジア地域への販売強化、③外部有力 IP との連携、④インディーゲームを含む国内外におけるパブリッシング事業の展開、の 4 つのシナジー創出と新分野における事業成長の加速を見込んでおります。

* 投資サイクル=複数プロジェクトに時期をずらして投資することで、全社の黒字運営と事業成長を両立しようとする仕組み。

(2) 財務戦略

- ・適正な自己資本を維持しつつ資本効率を向上
- ・低収益性事業の見直しや縮減による投資サイクルの改善
- ・役員報酬における業績連動報酬、株式報酬の採用による経営幹部の株価への意識向上

【進捗】

自己資本比率は 79.4%と前期より 1.1 ポイント上昇し、適正な水準を維持しています。投資サイクルの観点から、投下資本を適切に管理し、収益性の高いプロジェクトへ集中投資することで資本効率の向上に努めております。2026 年 7 月に株式会社オペラハウスを完全子会社化し、成長分野への戦略的な投資を実施しました。今後は、事業シナジーの創出を通じて、収益基盤の強化と資本効率の向上を図ってまいります。

2026 年 9 月には、財務戦略の高度化を目的として取締役 CFO を新設し、川西祐輔氏が就任いたしました。

(3) 人的資本への投資

- ・各種インセンティブ、研修の充実、資格取得の支援
- ・リスクリングによる新たな知識・スキルの獲得と成長分野への人材活用

【進捗】

新分野（電子コミック・コンシューマ）への人的リソースの再配分を加速させ、リスクリングを推進しております。AI の活用を促進し、勉強会や事例共有を行っております。

(4) 株主還元の推進

- ・配当による株主への積極的な利益還元
- ・魅力的な株主優待制度の継続

【進捗】

配当性向 20%以上を目標に掲げていますが、当期純損失の計上に伴い、誠に遺憾ながら無配とさせていただきました。早期の業績黒字化を果たし、安定配当の再開を目指してまいります。株主優待につきましては、2026 年はユーザー株主にも喜んでいただける新たな取り組みとして、男性向けの主力タイトルである「六本木サディスティックナイト」のデザインを用いた金券による還元を実施いたしました。

(5) IR、PR 活動の強化

- ・決算説明会の継続実施
- ・決算説明資料や IR サイトでの情報更新
- ・個人投資家への積極的な情報開示と対話促進
- ・IR お問い合わせ窓口の設置
- ・投資家の利便性を高めた IR サイトの継続的な見直し
- ・ESG、サステナビリティに関する取り組みの積極開示

【進捗】

決算説明会の実施および質疑応答を含めた情報を迅速に開示することに努めております。当社はスタンダード市場に属する時価総額数十億円規模の中小型株であり、個人投資家の比率が高いと想定されます。今後も、個人投資家の皆さまに成長を見据えた魅力的な投資対象として認知・評価いただけるよう、PR 活動を積極的に強化してまいります。

以上